



平成 17 年 (2005 年) 3 月 23 日 第 12 号

## 子どもの思いや願いとは？

春曇のなか中学校 3 年生約 3,300 人が、春雷の見送りなか小学校 6 年生約 3,500 人が学舎を巣立ちました。

私が参列した中学校の卒業式では、涙をこらえながら、今までの中学校生活の思い出や在校生へのメッセージがこめられた答辞から、小学校では、自分の夢や決意を語る姿から子どもたちの思いや願いが会場に広がりました。特に、小学校では、なりたい職業や出場したいスポーツ大会などを夢見ている子もたくさんいました。子どもたちの学力や学習意欲の低下が話題となって久しい中、「中学校に行ったら勉強をがんばりたい。」「部活も勉強もがんばりたい。」と述べている子が多いことに少々の驚きを感じました。

ところで、本年度の豊中市小・中学生の生活実態調査「豊中の子ども像 X I - 子どもの思いや願いを探る -」を教育センター研究紀要としてまとめました。対象学年は毎年小学校 5 年、中学校 2 年として、調査校はローテーションでご協力いただいています。私は、34 ある設問のうち設問 6 に注目しました。困っていることや心配に思うことの第 1 位が「勉強のこと」でした。また、関連の設問 15 「あなたは、学校での学習についてどのように思っていますか。」では 88.3% が「わかりたい」と答えていました。

日々の学校での学習について「わかりたい」と願っている子どもは、校種別の差がなくとても多くいます。「わかってきた」「もっとわかりたい」と心配から安心感や積極的な意欲へと変えたいと願うことは、多くの先生方にとっても共通の思いや願いなのではないでしょうか。(榎本)

設問 6 あなたが今こまっていることや心配に思う事はなんですか。(重複回答可)

小学生	(%)	中学生	(%)
1. 勉強のこと	39.3	1. 勉強のこと	71.9
2. 自分の性格やくせ	39.1	2. 自分の性格やくせ	34.7
3. 友だちのこと	24.4	3. クラブや部活動のこと	30.0
4. 塾や習い事のこと	22.1	4. お金のこと	28.1
5. 身体のこと	20.5	5. 友だちのこと	27.5

# コンテンツを使って、授業を工夫してみませんか？

## ◇ネットネットワーク配信コンテンツ活用推進事業報告会より

3月3日（木）、4日（金）三鷹市において、ネットワーク配信コンテンツ活用推進事業の報告会があった。

全国から参加があり、12地域の活用報告とパネルディスカッションが催された。同時にこの事業にコンテンツを提供しているソフトメーカーが参加し、展示・相談会があった。



豊中市でも本年度は13校でこの事業のコンテンツ活用が行われており、豊中市の教育の情報化の現状とコンテンツ活用の成果と課題を報告した。

「試用ができ、中身をみてから購入できること」、「安価で、ユーザー数が限定されないこと」、「利用することで理解が進んだ。」、「子どもたちが意欲的に取り組んだ。」などの成果及び、「ユーザー認証入力の難しさ」、「ネットの混雑に影響されること」、「長期（5年程度）使用すると、価格面のメリットが無くなってしまうこと」などの課題を報告した。

全国の他の地域からも同様な成果と課題の報告があり、また各地域での特徴のある取組についても発表があった。また、全国で活用されているコンテンツの傾向としては、「授業で使える時期が長いもの（いつでも使えるもの）」、「全教科をまとめたソフト」、「提示型・掛け図的なソフト」が多いとの報告があった。

各地域からあげられた課題については、今後、評価推進委員会において解決にむけ検討していく方向でまとまった。ネットワーク配信コンテンツの活用がさかんに行われている地域では、この事業のコンテンツばかりではなく、その地域独自で購入しているコンテンツ（豊中では、ブリタニカ百科事典など）やインターネット上に存在するコンテンツも盛んに利用しているとの報告もあった。

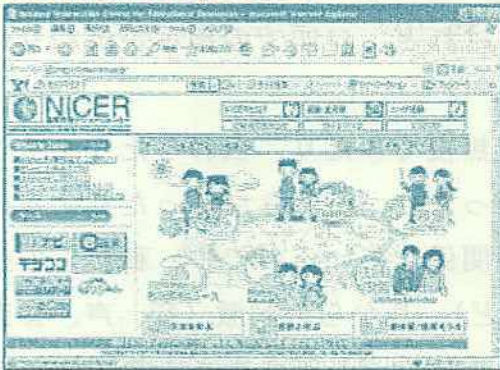
文部科学省の中川参事官が挨拶をされ、国、民間、委員会、学校が一体となり、「コンテンツ」を「使える」状況に整備していくことの必要性を語られた。

「情報教育」は、ここ数年で、「教育の情報化」と表現されるようになってきた。私たちは、ただ、IT機器やインターネットを「使う」のではなく、子どもたちにわかる授業を展開するためにいままでのように授業を「考え」、工夫する。その中で、子どもたちにとって、「コンテンツ」を利用することが効果的、効率的であれば、いつでも子どもたちのために「使える」ことが大切であると改めて感じた。

## ◇インターネット上から使えるコンテンツ

使う、使わないは、別にして授業のネタの一つとしてとにかくコンテンツを覗いてみませんか。

### NICER 教育情報ナショナルセンター



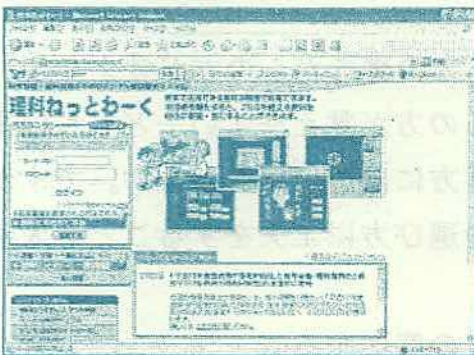
<http://www.nicer.go.jp/>

教育情報ナショナルセンターを略してNICERと呼ばれます。

National Information Center for Educational Resourcesを略しています。

NICERは、我が国におけるあらゆる教育情報を扱う中核的なWebサイトです。また、学習者や教育関係者をサポートする機能を備えています。

### 理科ねっとわーく



<http://www.rikanet.jst.go.jp/>

科学技術・理科教育のために開発されたデジタル教材を、教育利用に限定して著作権処理し、学校の授業で自由に使っていただくことを目的としています。

システムの各機能を有効に活用していただき、豊富な教材で授業をより円滑に進めていただけます。

### 教育用画像素材集



<http://www.osaka-c.ed.jp/okayama/index.html>

大阪府教育センターのホームページ内にあります。岡山県の情報教育センターからの提供で、教育用画像は、CEC、IPA「教育用画像素材集サイト」のデータを元に再構築したものです

(今年度、導入された学校には、PC室サーバーに同じ内容のコンテンツが入っています。)



Digital Science &  
Culture Museum

デジタルサイエンス&カルチャー・ミュージアム

※ 映像コンテンツ

千里アーカイブステーション <http://www.s-a-station.org/>  
千里周辺に集積する最先端の科学・文化のリソースを活用し、教育のための優れた映像コンテンツを制作、蓄積活用していく組織です。(内容は少し難しいかも。)

## 感じ方いろいろ

このような子どもたちに心当たりはないでしょうか？窓側の席に座っていて、外を走っている車や人の動きやグラウンドで行われている体育の授業に気をとられ、先生の話や授業に集中できないでいる子。運動会のピストルの音や、マイク、拡声器といった大きな音が怖くて動けなかったり、話しが聞けなかったりする子。黒板や紙に書かれた指示は伝わるけれど、口頭での指示が伝わりにくい子。

多くの子どもたちが気にならなかったり、無視できたり、伝わったりすることが、どうして気になったり、無視できななかったり、伝わらなかったりするのでしょうか？これには「刺激」というものが関係しているのです。私たちの生活の中には目からの刺激（文字、光、映像など）、耳からの刺激（音、声、音楽など）、皮膚からの刺激（マッサージ、痛み、温度など）等さまざまな刺激があります。前述したような子どもたちに影響しているのは刺激の感じ方の違いなのです。

人の名前を覚える時に、耳からの刺激である音の響きからの方が覚えやすい子どももいれば、目からの刺激である文字からの方が覚えやすい子どももいます。このように、子どもによって情報の伝わり方には違いがあります。ですから、私たちは子どもたちと接する際に、刺激の選び方に工夫をすることが大切になります。

- ◆窓側では刺激が多すぎる子には廊下側や前方の席にする。
- ◆ピストルの大きな音を笛の音に代える。
- ◆マイクや拡声器で伝えた内容を、再度普通の声で伝える。
- ◆大事なことは、口頭だけでなく紙にも書いて伝える。
- ◆問題が書かれたプリントでは、絵があった方がやる気になる子には空欄に絵を入れる。逆に絵があると落書きをしたり空想にふけったりと集中できない子には絵を省く。
- ◆今日の予定、持ち物、変更事項といった大事なことが書かれている場所の周りは掲示物などを貼らないでシンプルに示す。
- ◆集中しなければならない時には、壁の掲示や学級文庫など注意がそれやすいものは布などで隠しておく。



このような工夫によって子どもたちが落ち着いて過ごせるようになったり、理解できるようになったりするなど変化が見られたら、それは次なる新たな工夫への大きな原動力になりますね。（藤田）